大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

『陽宅十書』訳注II

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水野, 杏紀, 平木, 康平 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004443

『陽宅十書』訳注Ⅱ

水野杏紀
平木康平

はじめに

『陽宅十書』は、全部で十篇、「論宅外形第一」、「論福元第二」、「論大遊年第三」、「論穿宮九星第四」、「論元空装卦訣第五」、「論開門修造門第六」、「論放水第七」、「論宅内形第八」、「論選擇第九」、「論符鎭第十」で構成されており、居宅の吉凶を占断する書である。

たとえば、居宅を囲む山河などの地勢や周囲の環境とその吉凶、居宅の門戸、樹木や池の配置とその吉凶などが記されている。また、『明史』藝文志に、王君榮『陽宅十書』四巻が著録されている。

すでに、『陽宅十書』訳注Ⅰは、「人文学論集　第26集」（大阪府立大学　人文学会　二〇〇八）に、「論宅外形第一」の前半部をとりあげた。本稿では、「論宅外形第一」のうち、陽宅外形吉凶圖説に訳注を施した。

それぞれの図と解説には便宜上、番号をふり、図とともに、原文、訓読、通釈を記した。（図は原図にできるだけ忠実に作図したが、図と本文の内容が一致しない場合、またはわかりにくい場合は、本文に合わせて修正を加えた。なお、原図は下が北、上が南の方位として作図されており、それにしたがった。）また、『古今圖書集成』堪輿部所収の『陽宅十書』を底本とした。

陽宅外形吉凶圖説

一、（原文）此宅左短右邊長。君子居之大吉昌。家内錢財豐盛富。只因次後少兒郎。

（訓読）此の宅は左短く右邊長し。君子之れに居れば、大いに吉昌なり。家内は錢財　豐盛にして富む。只だ因次　後には兒郎少なし。

（通釈）この宅地は左（東）が短く、右（西）が長い。君子がここに居住すれば、大いに吉昌となる。家内に錢財が豊富で栄える。ただ次第に家の男子が少なくなる。

二、（原文）右短左長不堪居。生財不旺人口虚。住宅必定子孫愚。先有田蠶後也無。

（訓読）右短く左長きは、居るに堪えず。生財旺んならず、人口虚し。宅に住めば、必ず定めて子孫愚なり。先には田蠶有るも、後には無し。

（通釈）右（西）が短く、左（東）が長い宅地は、居住するに堪えない。生活の資材が旺んにはならず、家族もいなくなる。この宅地に居住すれば、必ずきっと子孫は愚かになる。はじめ農業や養蚕業を営むも、後にはそれを失うことになる。

三、（原文）昔日周公相此居。丑寅空缺聚錢貲。家豪富貴長保守。不遇仙人怎得知。

（訓読）昔日　周公　此の居を相す。丑寅空缺なれば、錢貲を聚む。家豪だ富貴にして、長く保守せん。仙人に遇わざれば、怎ぞ知るを得ん。

（通釈）昔、周公はこの宅地を占った。丑寅（東北）がかけているから、財貨があつまる。この家ははなはだ富貴となり、それを長く維持するだろうと。（周公のような）仙人にあわなければ、どうしてそのことを知ることができようか。

四、（原文）辰巳不足却為良。居之家豪大吉昌。若是安荘終有利。子孫興旺足牛羊。

（訓読）辰巳足らざれば、却って良しと為す。之れに居れば、家豪だ大吉にして昌えん。若し是れ荘を安んずれば、終に利有り。子孫興旺して、牛羊を足らす。

（通釈）宅地の辰巳（東南）がかけていれば、かえって良地となす。ここに居住すれば、家ははなはだ大吉にして昌えるであろう。もしここに別荘をしつらえれば、後には利をもたらす。子孫は盛んとなり、牛羊の家畜が充足する。

五、（原文）仰目之地出賢人。庶人居之又不貧。子孫印綬封官職。光顯門庭共九卿。

（訓読）仰目の地は賢人を出だす。庶人　之れに居れば、又貧ならず。子孫印綬して官職に封ぜらる。門庭を光顯して九卿を共にす。

（通釈）仰ぎみあげるような宅地に居住すれば、賢者を輩出する。庶民がここに住んだならば、また貧乏にならない。子孫は印綬を身につけ、官職に任ぜられる。一門の名声は大いに揚がり、代々九卿の地位にのぼる。

六、（原文）中央高大號圜丘。修宅安墳在上頭。人口貲財多富貴。二千食禄任公侯。

（訓読）中央高大なるは圜丘（かんきゅう）と號す。宅を修め墳を安んじて上頭に在らば、人口貲財多くして富貴ならん。二千の食禄ありて、公侯に任ぜらる。

（通釈）宅地の中央が高く大きいのは、圜丘と呼ばれる。そうした土地の上部に居宅を修造し、あるいは墳墓をしつらえるならば、家族の数や財宝がふえ、富貴となる。二千石の禄を得て、公侯に任ぜられる。

七、（原文）坎兌兩邊道路横。定主先吉後有凶。人口貲財初一勝。不過十年一時空。

（訓読）坎兌の兩邊に道路横たう。定めて主先に吉にして、後に凶有り。人口貲財　初めは一たび勝るも、十年を過ぎずして、一時に空し。

（通釈）宅地の坎（北）と兌（西）両方に道路が横たわっているならば、きまってその家の主人は初めは吉だが、後には凶となる。家人や財産は、最初の一時は盛んであるが、十年もたたないうちに、ほんの一時でなくなる。

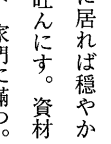
八、（原文）此宅修在涯水頭。主定其地不堪修。牛羊盡死人逃去。造宅修塋見禍由。

（訓読）此の宅は修めて涯水の頭に在り。主其地を定むるも、修むるに堪えず。牛羊は盡く死して、人は逃去す。宅を造り塋を修むれば、禍の由るを見ん。

（通釈）この宅地は水際につくられている。家の主人がここに宅地を定めても、居宅を修築できない。牛羊などの家畜はことごとく死に、家族は離散する。ここに居宅を造営したり、墓を修造したりすれば、災いがふりかかってくる。

九、（原文）前狹後寛居之穩。富貴平安旺子孫。資材廣有人口吉。金珠財寶滿家門。

（訓読）前狹く後寛きは、之れに居れば穩やかなり。富貴平安にして、子孫を旺んにす。資材廣有して、人口吉なり。金珠財寶　家門に滿つ。

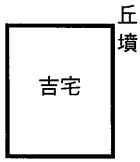


（通釈）前（南）が狹く、後（北）が広い宅地は、ここに居住するならば、平穏に暮らせる。富貴にして平安、子孫を繁栄させる。財産を広く所有し、家人に吉をもたらす。金銀財宝が家の中に満ち溢れる。

十、（原文）前寛後狭似棺形。住宅四時不安寧。貲財破盡人口死。悲啼呻吟有嘆聲。

（訓読）前寛く後狭きは、棺形に似たり。宅に住めば、四時安寧ならず。貲財破盡して、人口死す。悲啼呻吟して、嘆聲有り。

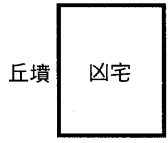
（通釈）前（南）が広く、後（北）が狭い宅地は、棺桶の形に似ている。こうした宅地に居住すると、年中安らかに暮らせない。財宝もすっかりなくなり、家族は死んでいく。悲しみにくれてうめき、嘆く声がおこる。



十一、（原文）西南坤地有丘墳。此宅居之漸漸榮。若是安荘並造屋。兒孫輩輩主興隆。

（訓読）西南の坤地に丘墳有り。此の宅は之れに居れば、漸漸として榮えん。若し是れ荘を安んじ、並びに屋を造れば、兒孫輩輩として、主は興隆す。

（通釈）この宅地は西南の坤方の地に丘墳がある。こうした宅地に居住するならば、次第に繁栄するであろう。もし別荘をしつらえ、家屋を造営するならば、子孫に次々とめぐまれ、家の主人は成功する。



十二、（原文）此宅卯地有丘墳。後來居之定滅門。愚師不辨吉凶理。年久墳前缺子孫。

（訓読）此の宅　卯地に丘墳有り。後來　之れに居れば、定めて門を滅ぼす。愚師は吉凶の理を辨ぜず。年久しくして墳前に子孫を缺く。

（通釈）この宅地は卯（東）方に丘墳がある。将来、ここに居住していると、きっと家を滅ぼすであろう。愚かな師は吉凶の理をわきまえていない。長い年月がたつと、墳墓の前で子孫を失うことになる。

十三、（原文）此房正北有丘墳。明師安荘定有名。君子居之官出禄。庶人居之家道榮。

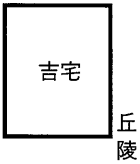
（訓読）此の房　正北に丘墳有り。明師　荘を安んずれば、定めて名有り。君子之れに居れば、官は禄を出だす。庶人之れに居れば、家道榮えん。

（通釈）この家は真北に丘墳がある。賢明な師が別荘をしつらえれば、きまって名声を得る。君子がここに居住するならば、官僚となり俸禄を得る。庶民がここに居住するならば、家業が栄える。

十四、(原文)前後有丘不喜歡。安荘修造數餘年、此宅常招凶與吉。得時富貴失時嫌。

(訓読) 前後に丘有るは喜歡せず。荘を安んじ修造すること數餘年すれば、此の宅は常に凶と吉とを招く。時を得れば富貴なるも、時を失えば嫌んぜらる。

(通釈) 宅地の前(南)と後(北)に丘があるのは喜ばしいことではない。ここに別荘をしつらえ、修造して数年余りたつと、この居宅は、常に吉凶があい半ばしておこる。時運を得れば富貴になるが、時運を失すれば、うとんぜられる。



十五、(原文)此居乾地有丘陵。修宅安荘漸漸興。女人入宮為妃后。兒孫以後作公卿。

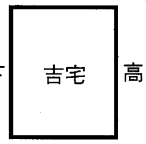
(訓読) 此の居は乾地に丘陵有り。宅を修め荘を安んずれば、漸漸として興らん。女人は宮に入りて妃后と為る。兒孫は以後、公卿と作る。

(通釈) この宅地は乾(北西)に丘陵がある。ここに居宅を修造し、別荘をしつらえれば、徐々に家は興隆する。女性は後宮に入って后妃となる。子孫はのちのち公卿(高位高官)の位につく。

十六、(原文)此宅前後有高沙。居之依師不為差。田財廣有人多喜。處處談揚道富豪。

(訓読) 此の宅 前後に高沙有り。之れに居れば、師に依りて差を為さず。田財廣有して、人喜び多し。處處 談揚して、富豪と道う。

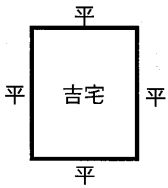
(通釈) この宅地は前(南)と後(北)に高い砂山がある。ここに居住するならば、どんな師でも占断に違いはない。田畑や財産を広く所有して、家人には喜び事が多い。あちらこちらでこの家は富豪だと褒めそやす。



十七、(原文)西高東下向北陽。正好修工興蓋荘。後代資財石崇富。滿宅家眷六畜強。

(訓読) 西高く東下く、北陽に向かう。正しく好く修工して蓋荘を興す。後代 資財ありて石崇の富あり。宅に満つるの家眷ありて、六畜強し。

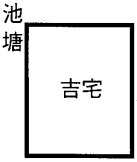
(通釈) 西が高く東が低い宅地は、北側に陽気がさしこむ。そこに正しくきちんと居宅を修造して、別荘を立派に建てると、子孫は石崇(晋の人。字は李倫。荊州の刺史となり巨万の富を得る)のごとき富を得る。家にあふれるほど家族は増え、家畜も元気に育つ。



十八、（原文）此宅方圓四面平。地理觀此好興工。不論宮商角徵羽。家豪富貴旺人丁。

（訓読）此の宅は方圓にして四面平らかなり。地理此れを觀るに、工を興すに好ろし。宮商角徵羽を論ぜず。家豪だ富貴にして、人丁を旺んにす。

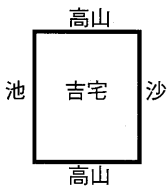
（通釈）この宅地は方形でこんもり盛りあがり、四周が平坦である。地理師がこれを占うと、居宅を造工するのに適しているとする。宮商角徵羽の音（住宅に属する音と家主の姓に属する音との調和）を論ずるまでもない。家ははなはだ富貴となり、家の働き手が増える。



十九、（原文）此宅觀靈取這強。却因辰巳有池塘。兒孫旺相家資盛。興小敗長有官防。

（訓読）此の宅は靈を觀て、這の強を取る。却って辰巳に池塘有るに因ればなり。兒孫は旺相して、家資盛んなり。小を興んにし長を破り官防有り。

（通釈）この宅地は霊気が観てとれ、その強さを取りこむ。これは辰巳（東南）に池塘があることによる。子孫を旺盛にし、家の財貨を豊かにする。若者を元気にし、年長者をそこねるが、役所の守りが得られる。



二十、（原文）前後高山兩相宜。左右兩邊有沙池。家豪富貴多年代。壽命延年彭祖齊。

（訓読）前後の高山は兩つながら相宜し。左右兩邊に沙と池と有り。家豪だ富貴にして年代多し。壽命延年すること彭祖に齊し。

（通釈）この宅地は前（南）と後（北）に高い山があり、両方ともよろしい。左（東）に池があり、右（西）に砂地がある。この家ははなはだ富貴で、何代も続いていく。住人は長生きして、寿命は彭祖（堯帝の臣であり、八百歳まで生きたとされる仙人。）にならぶ。

二一、（原文）此宅左右水長渠。久後兒孫福祿齊。禾麥錢財常富貴。兒孫聰俊勝祖基。

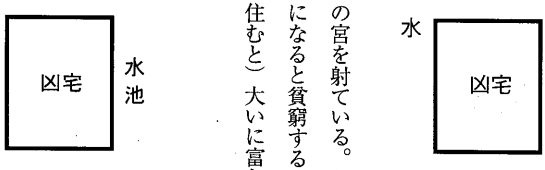
（訓読）此の宅は左右に水の長渠あり。久しき後まで兒孫　福祿齊し。禾黍錢財ありて、常に富貴なり。兒孫聰俊なること祖基に勝る。

（通釈）この宅地は左（東）と右（西）に水をたたえた長い堀割がある。ここに居住すれば、後々まで子孫に福禄がそなわる。穀物や財貨に恵まれ、常に富貴である。子孫が聡明で俊敏なことは祖先にまさる。

二二、(原文)左邊水來射午宮。先初富貴後貧窮。明師斷盡吉凶事。左邊大富右邊窮。

(訓読) 左邊より水　來たりて午宮を射る。先初は富貴にして、後は貧窮す。明師斷じて吉凶の事を盡くす。左邊は大いに富むも、右邊は窮す。

(通釈) 宅地は、左（東）から来る水が午（南）の宮を射ている。ここに居住すれば、最初は富貴であるけれども、後になると貧窮する。明師は吉凶を余さず占断する。ここは左(東)側(に住むと) 大いに富むけれども、右（西）側（に住むと）困窮すると。



二三、(原文)此屋西邊有水池。人若居之最不宜。牛羊不旺人不吉。先富後貧少人知。

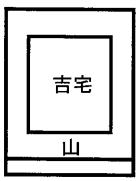
(訓読) 此の屋は西邊に水池有り。人若し之れに居れば、最も宜しからず。牛羊旺んならず、人吉ならず。先に富み後に貧しきこと、人知ること少なし。

(通釈) この家屋は、西辺に水池がある。人がもしここに居住するならば、最もよろしくない。牛羊は増えず、家人には不吉である。最初は富んでいても、後には貧しくなるが、人がそれを知ることは稀である。

二四、(原文)西北乾宮有水池。安身甚是不相宜。不逢喜事多悲泣。初雖富時終殘疾。

(訓読) 西北の乾宮に水池有り。身を安んずるには甚だ是れ相宜しからず。喜事に逢わず、悲泣多し。初めは富むと雖ども、時には終に殘疾あり。

(通釈) この宅地は西北の乾宮に池がある。ここ居住するならば、身を安らえるには、はなはだよろしくない。喜び事にめぐりあうこともなく、悲泣することが多い。初めは富んでいても、時としてついにけがや病気にあう。



二五、(原文)後邊有山可安莊。家財盛茂人最彊。若居此地人丁旺。子孫萬石有餘糧。

(訓読) 後邊に山有り、莊を安んずべし。家財盛茂して、人最も彊し。若し此の地に居れば、人丁旺んなり。子孫萬石にして、餘糧有り。

(通釈) 宅地の後辺（北）に山があり、別荘をしつらえてよい。家の財産は富み、家人はもっとも強くなる。もしこの地に居住すれば、家の働き手は増える。子孫は萬石の奉禄を得て、あり余る糧を得る。

二六、(原文)前有大山不足論。不可安荘立墳塋。試問明師凶與吉。若居此地定滅門。

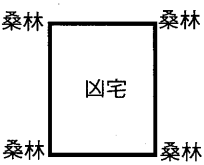
(訓読) 前に大山有るは、論ずるに足らず。荘を安んじ、墳塋を立つ可からず。試みに明師に問えば、凶と吉と。若し此の地に居れば、定めて門を滅ぼす。

(通釈) 宅地の前(南)に大きな山があるのは、論ずるまでもなくよくない。別荘をしつらえたり、墳墓を建立したりしてはいけない。試みに明師に問うならば、凶とも吉ともいうだろう。もしこの宅地に居住すれば、きまって家を滅ぼす。

二七、(原文)此宅後邊有高岡。南下居之第一彊。子孫興旺田蠶勝。歳歳年年有陳糧。

(訓読) 此の宅は後邊に高岡有り。南下(ひく)く之に居れば、第一の彊なり。子孫興旺して、田蠶勝る。歳歳年年 陳糧有り。

(通釈) この宅地は後(北)に高くそびえる岩山がある。南が低くなっており、ここに居住すれば、最も強運である。子孫は興隆繁栄し、農業や養蚕業が盛んとなる。年々余剰の食糧が蓄積されるほどになる。



二八、(原文)此宅四角有林桑。禍起之時不可當。若遇明師重改造。免敎後輩受悒惺。

(訓読) 此の宅は四角に林桑有り。禍(わざわい)起こるの時、當たるべからず。若し明師に遇えば、重ねて改造す。後輩をして悒惺を受け敎(し)むるを免る。

(通釈) この宅地は四隅に桑林がある。ここに居住するならば、禍いが起こった時、ふせぐことができない。もし明師にめぐりあうならば、重ねて改造することを助言するだろう。そうすれば、のちの人々を悲しみやおそれを受けないようにさせる。

二九、(原文)此宅前後有墳林。凡事未通不稱心。家財破敗終無吉。常有非災後又侵。

(訓読) 此の宅は前後に墳林有り。凡そ事は未だ通ぜず、心に稱(かな)わず。家財破敗して、終に吉無し。常に非災有りて、後に又侵さる。

(通釈) この宅地は、前後に林にかこまれた墳墓がある。あらゆる物事は達成せず、心にかなうこともない。家の財産は破れ失われて、ついに吉がもたらされることはない。常に災厄がもたらされ、後にはまた外敵から侵略される。

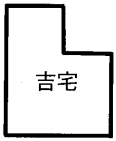
三〇、(原文)左邊孤墳莫施工。此地安荘甚是凶。疾病纏身終不吉。家中常被鬼賊侵。

(訓読)左邊に孤墳あれば、施工すること莫かれ。此の地に荘を安ずれば、甚だ是れ凶なり。疾病身に纏いて、終に吉ならず。家中　常に鬼賊に侵さる。

(通釈)宅地の左(東)辺にぽつんと墳墓があるならば、ここに居宅を造営してはいけない。この地に別荘をしつらえるのは、はなはだ凶である。身体は常に疾病におかされ、ついに吉となることはない。家人は常に邪鬼に侵害されるだろう。

三一、(原文)此宅右短左邊長。假令左短有何妨。後邊齊整方圓吉。庶人居之出賢良。

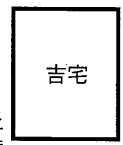
(訓読)此の宅は右短く左邊長し。假令左短くとも、何の妨げか有らん。後邊齊整して、方圓なるは吉。庶人之れに居れば、賢良を出だす。



(通釈)この宅地は、右(西)辺が短く左(東)辺が長い。もし反対に左が短くても何の妨げもない。後(北)辺がきちんと整い、四角かまるく盛りあがっていれば吉である。庶民がここに居住すれば、家人から賢明かつ善良な人物を輩出する。

三二、(原文)東北丘墳在艮方。成家立計有何妨。修造安荘終迪吉。富貴榮華世世昌。

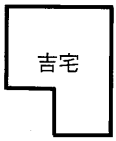
(訓読)東北の丘墳　艮方に在り。家を成し計を立つるに、何の妨げか有らん。修造し荘を安んずれば、終に吉に迪る。富貴榮華にして、世世昌んなり。



(通釈)この宅地は、東北の艮方に墳丘がある。ここに家をつくり、生計を立てるのに、何の妨げもない。きっちり造営し、別荘をしつらえるならば、終に吉にいたる。富貴栄華を得て、代々栄える。

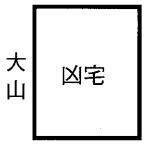
三三、(原文)左短右長却安然。後面夾稍前面寬。此地修造人口吉。子孫興旺勝田蠶。

(訓読)左短く右長ければ、却って安然たり。後面夾稍にして、前面寛し。此の地に修造すれば、人口吉あり。子孫興旺して　田蠶勝る。



(通釈)左(東)辺が短くて右(西)辺が長い宅地は、かえって安泰である。後(北)面はやや狭く、前(南)面はひろい。この宅地に居宅を修造すれば、その家人に吉である。子孫が興隆し、農業や養蚕業が盛んになる。

三四、(原文)此宅東邊有大山。又孤又寡又貧寒。頻遭口舌多遭難。百事先成後來難。



(訓読) 此の宅は東邊に大山有り。又孤にして又寡にして又貧寒なり。頻りに口舌に遭い、難に遭うこと多し。百事　先には成るも後来難し。

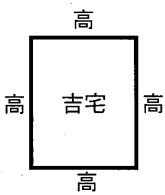
(通釈) この宅地は、東辺に大きな山がある。ここに居住するならば、あるいは若くして父を亡くし、あるいは夫を亡くし、あるいは極貧となる。しばしば口論をこうむり、災難に遭遇することが多い。万事、最初はうまくいくが、後には難渋する。

三五、(原文)此地觀之有何如。前山後山不堪居。家貧孤寡出賊子。六畜死盡禍有餘。

(訓読) 此の地　之を觀るに何如か有らん。前に山あり、後に山あるは、居るに堪えず。家貧しくして孤寡賊子を出だす。六畜死に盡し、禍い餘り有り。

(通釈) この宅地の相を観ると、ひとつもよいところがない。前(南)に山、後(北)に山があるのは、居住するのにたえられない。家は貧しく、孤児や寡婦、あるいは反逆する子供が出る。家畜は死にたえ、あり余るほどの災禍がある。

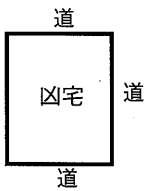
三六、(原文)中央正面四面高。修蓋中宅福有餘。牛羊六畜多興旺。家道富貴出英豪。



(訓読) 中央は正しく面して、四面高し。中宅を修蓋すれば、福餘り有り。牛羊六畜は多く興旺す。家道富貴にして、英豪を出だす。

(通釈) この宅地は四方がきちんと東西南北に面しており、四面が高くなっている。修造する居宅をその中心に配すれば、あり余るほどの福がもたらされる。牛や羊などの家畜は多く繁殖する。家は富貴となり、英雄豪傑を輩出する。

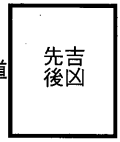
三七、(原文)四面交道主凶殃。禍起人家不可當。若不損財災禍死。投河自縊井中亡。



(訓読) 四面　道に交まれば、主　凶殃あり。禍　人家に起これば、當たるべからず。若し財を損なわざるも、災禍ありて死せん。河に投じ自ら縊して、井中に亡す。

(通釈) 四方が道に挟まれている宅地に居住するならば、主人は災禍にかかる。禍が家に起こっても、ほどこす術がない。もし財産をそこなわなかったとしても、災禍にあって死ぬ。河に身を投ずるか、みづから首をくくるか、井戸におちて死ぬか、いずれかである。

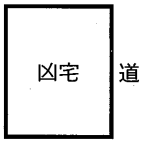
三八、(原文)此地只因道左邊。久住先富後貧寒。貴重之人終迪吉。若逢賤者離家園。



(訓読) 此の地は只だ道　左邊にあるに因り、久しく住すれば先には富むも、後には貧寒す。貴重の人は終に吉に迪る。若し賤者に逢えば、家園を離つ。

(通釈) この宅地はただ左(東)辺に沿って道があるので、ここに久しく居住するならば、最初は裕福だが、後には極貧になる。高貴な人は終には吉になる。もし卑賤な者がこの地に住みつくと、家や田畑を手放す。

三九、(原文)兩邊白虎生災殃。百事難成有死傷。賊人偸盗錢財破。又兼多訟被官防。



(訓読) 兩邊に白虎あれば、災殃を生ず。百事成り難く、死傷有り。賊人偸盗ありて、錢財を破る。又兼ねて訟多く、官防を被むる。

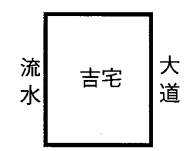
(通釈) 宅地の両(東と西)辺に白虎の道があれば、災殃が生じる。何事も達成が困難で、死傷者がでる。強盗やこそ泥に入られて、財貨が盗まれる。またあわせて訴訟が多く、役所からの妨害にあう。

四〇、(原文)此宅東北斜道行。宅西大道主亨通。雖然置下家財産。破敗一時就滅傾。

(訓読) 此の宅は東北に斜道の行くあり。宅の西に大道あれば、主　亨通す。家の財産を置下すと雖然も、破敗すること一時にして、滅傾に就かん。

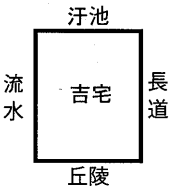
(通釈) この宅地は東北に斜道があり、西に大道がある。(はじめは)その家の主人はうまくことを運ぶ。家の財産をためていくが、一瞬にして破産して、家を傾け滅ぼしてしまう。

四一、(原文)宅東流水勢無窮。宅西大道主亨通。因何富貴一齊至。右有白虎左青龍。



(訓読) 宅の東に流水あり、勢　窮まり無し。宅の西に大道あれば、主　亨通す。何に因りてか富貴一齊に至らん。右に白虎有り、左に青龍あればなり。

(通釈) 宅地の東に流水があり、勢いは止まることがない。宅の西に大道があれば、この家の主人はすべて事がうまくいく。どうして富貴が一斉におとづれるのか。右(西)に白虎の大道があって、左(東)に青龍の流水があるからである。



四二、(原文)朱元龍虎四神全。男人富貴女人賢。官祿不求而自至。後代兒孫福遠年。

(訓読) 朱元龍虎の四神全し。男人は富貴にして女人は賢し。官祿は求めずして自ら至る。後代の兒孫の福　遠年たり。

(通釈) この宅地は朱雀、元(玄)武、青龍、白虎の四神がすべて備わっている。ここに居住するならば、その家の男性は富貴となり、女性は賢才である。官祿は求めなくても、自然に得られる。後世の子孫の福はいつまでも続く。

四三、(原文)宅前有水後有丘。十人遇此九人憂。家財初有終耗散。牛羊倒死禍無休。

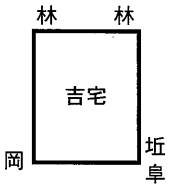
(訓読) 宅前に水有り、後に丘有り。十人此れに遇えば、九人憂う。家財初めは有るも、終に耗散す。牛羊倒死し、禍は休むこと無し。

(通釈) この宅地は、前(南)に水があって、後(北)に丘がある。もしここに居住すれば、十人のうち九人は憂い事がある。家財は初めは保有するも、最後には耗散してしまう。牛羊などの家畜は斃れ死に、災禍は休みなくおこる。

四四、(原文)此宅安居正可求。西南水向東北流。雖然重妻別無事。三公九相近王侯。

(訓読) 此の宅は安居にして、正に求むべし。西南より水　東北に向いて流る。妻を重ぬと雖然も、別に事無し。三公九相となりて、王侯に近し。

(通釈) この宅地は安全な住まいであって、まさに求めるべき地である。西南から水が東北にむかって流れている。かりに複数の妻を持ったとしても、別に問題はない。三公九相という高位を得て、王侯に近くなる。



四五、(原文)宅前林木在兩傍。乾有丘埠艮有岡。若居此地家豪富。後代兒孫貴顯揚。

(訓読) 宅前の林木　兩傍に在り。乾に丘埠有り、艮に岡有り。若し此の地に居れば、家は豪だ富まん。後代の兒孫　貴くして顯揚す。

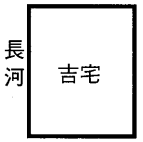
(通釈) 宅地の前(南)に、林が両側(東南と西南)にある。乾(北西)に高い土の丘があり、艮(東北)に岩山がある。もしこの地に居住するならば、家ははなはだ富む。後世の子孫は貴くして、その名声が世に広く高まる。

四六、(原文)前有丘陵後有岡。西邊穏抱水朝陽。東行慢下過一里。此宅安居甚是強。

(訓読) 前に丘陵有り、後に岡有り。西邊は穏やかに水を抱きて陽に朝う。東行慢下して過ぐること一里。此の宅は安居にして、甚だ是れ強なり。

(通釈) この宅地は、前(南)に丘陵があって、後(北)に岩山がある。西辺は穏やかに水を抱え、南の陽に向かっている。東は緩やかに一里ほど下っている。この宅地は安全な住まいで、非常に強運を得る地である。

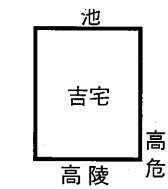
四七、(原文)西來有水向東流。東顯長河九曲溝。後高緜遠兒孫勝。禾穀田蠶歲歲収。



(訓読) 西より來たる水有り、東に向いて流る。東に顯らかに長河の九曲溝あり。後は高く緜遠たるは兒孫勝る。禾穀田蠶は歲歲収まらん。

(通釈) この宅地は、西から来る水が東に向かって流れている。東には、はっきりと多くの湾曲した溝を持つ長河が望める。後(北)が高く長く遠くまで続いており、その家の子孫はすぐれ者となる。農業や養蚕業は毎年収穫が得られる。

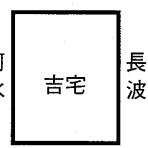
四八、(原文)後高有陵前近池。西北瞻仰顯高危。天賜富貴食糧足。輩輩兒孫著紫衣。



(訓読) 後は高く陵有り、前は池に近し。西北瞻仰し、高危を顯わす。天は富貴を賜い、食糧をば足らす。輩輩として兒孫は紫衣を著けん。

(通釈) 宅地は後(北)には高い陵があり、前(南)は池に近い。西北方は高く険しい地形が仰ぎのぞめる。そこに居住すれば、天は富貴を授け、食糧を充足させる。子孫は次々と紫衣を身につけるほどの高い地位につく。

四九、(原文)西有長波匯遠岡。東有河水鵞鴨昌。若居此地多吉慶。代代兒孫福祿彊。



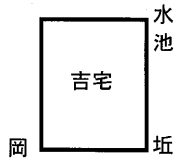
(訓読) 西に長波有り、遠岡を匯る。東に河水有り、鵞鴨昌んなり。若し此の地に居れば、吉慶多し。代代兒孫は福祿彊し。

(通釈) この宅地は、西に長い波だつ河があって、遠く岩山をめぐっている。東に河川があって多くの鵞鳥や鴨がいる。もしここに居住すれば、吉事が多い。代々の子孫は大いに福祿が得られる。

五〇、(原文)前邊左右有坵陵。後面東道遠平平。巽地開門家富貴。不宜兌路子孫衝。

(訓読)前邊の左右に坵陵有り。後面に東道ありて遠く平平たり。巽地に門を開けば、家　富貴ならん。宜しく路を兌すべからず。子孫衝らん。

(通釈)宅地の前(南)面の左右に丘陵がある。後(北)面の東には平らな道が遠くまで続いている。この地の巽(東南)に門を開くと、家は富貴となる。ただし、道路を通してはならない、そうすれば、子孫が衝突事故をおこすからである。



五一、(原文)住宅西南有水池。西北坵勢更相宜。艮地有岡多富貴。子孫天錫著羅衣。

(訓読)住宅の西南に水池有り。西北の坵勢更に相宜し。艮地に岡有るは富貴多し。子孫天錫ありて羅衣を著けん。

(通釈)住宅地の西南に池がある。西北の丘に勢いがあるのは、さらによろしい。艮(東北)に岩山があるのは、富貴が多い。子孫は天からの賜物があり、羅衣(うす絹の衣)を着る身分となる。

五二、(原文)南來大路正衝門。速避直行過路人。急取大石宜改鎮。免教後人哭聲頻。

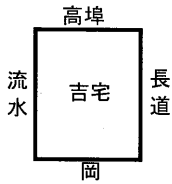
(訓読)南より來たる大路　正に門に衝たる。速やかに直行して、路を過ぐるの人を避くべし。急ぎ大石を取りて、宜しく改め鎮むべし。後人をして哭聲頻りならしむるを免がる。

(通釈)この宅地は、南からの大道がちょうど門にぶつかっている。(この場合は)すみやかに、直行して道を通過する人を避けなければならない。いそいで大石を据えて、改めて鎮めなければならない。そうすれば、子孫が悲しみの声を頻繁にあげないようにさせられる。

五三、(原文)東西有道直衝懐。定主風病疾傷災。從來多用醫不可。兒孫難免哭聲來。

(訓読)東西に道有りて直ちに懐に衝る。定めて主に風病疾傷の災あり。從來多く醫を用いるも可ならず。兒孫　哭聲の來たるを免れ難し。

(通釈)宅地の東西に道があって、まっすぐ(宅地の南の)懐にあたるところにぶつかっている。ここに居住すれば、きまって家の主人は傷病にかかる。これまで通り多く医者を用いてみても、その効果がない。子孫は悲しみの声あげることから免れ難い。



五四、(原文)前有高埠後有岡。東來流水西道長。子孫世世居官位。紫袍金帯拝君王。

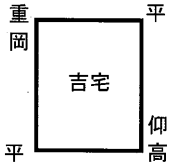
(訓読) 前に高埠(こうふ)有りて、後ろに岡有り。東より來たる流水ありて、西道長し。子孫世世 官位に居る。紫袍金帯して君王に拝す。

(通釈) 宅地の前(南)に高い盛りあがった土山があり、後(北)に岩山がある。東より流れてくる水があり、西の道は長く続いている。ここに居住すれば、子孫は代々高い官位につく。紫袍金帯に身をつつんで、君主に拝謁するようになる。

五五、(原文)乾坤艮坎土岡高。前平地勢有相饒。立宅居之人口旺。兒孫出衆又英豪。

(訓読) 乾坤艮坎 土岡高し。前の平地に勢あれば、相饒有り。宅を立て之に居れば、人口旺んなり。兒孫衆より出て、又英豪たり。

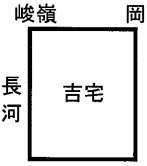
(通釈) 宅地には、乾(北西)、坤(西南)、艮(東北)、坎(北)に土山や岩山が高くそびえている。前(南)の平坦の地に勢いがあればさらに豊かである。ここに居宅を建て居住するならば、家人は旺盛となる。子孫は衆人より抜きん出て、英雄豪傑となる。



五六、(原文)西北仰高數里彊。東南巽地有重岡。坤艮若平家富貴。田蠶萬倍足牛羊。

(訓読) 西北仰高にして、數里彊あり。東南巽地に重なれる岡有り。坤艮 若し平らかなれば、家富貴なり。田蠶萬倍して、牛羊を足らす。

(通釈) この宅地は、西北に仰ぎみるほど高い山が数里にわたって続いている。巽(東南)の地には、重なり連なる岩山がある。坤(西南)、艮(東北)がもし平坦であれば、その家は富貴である。農業、養蚕業は何倍にもなり、牛羊などの家畜は充足する。



五七、(原文)南北長河又寛平。東嶺西岡三兩層。左右宅前來相顧。兒孫定出武官人。

(訓読) 南北に長河ありて、又寛平なり。東嶺西岡は三兩層あり。左右より宅前に來たりて相顧る。兒孫定めて武官の人を出だす。

(通釈) この宅地は、南北に長河が流れ、また川幅が広く平らかである。さらに東に峻嶺、西に岩山が二、三層重なっている。それらが左右より宅地の前(南)に向かってのぞきこむ形となっている。ここに居住すれば、子孫からきまって武官を輩出する。

五八、(原文)東西寛大両頭尖。嶺上安墳不足看。此地若無前後勢、家中男女衆人嫌。

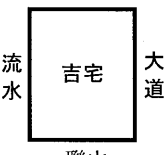
(訓読) 東西寛大にして両頭尖あり。嶺上に墳を安んずるは看るに足らず。此の地　若し前後の勢い無ければ、家中の男女　衆人に嫌わる。

(通釈) 宅地の東西は大きく広がっており、両端の頭が尖っている。嶺の上に墓を安置するのはみるまでもなく凶である。この地にもし前後の勢いがなければ、家中の男女は衆人に嫌われる。

五九、(原文)艮地孤墳一墓安。莫教百歩内中間。久後痴聾並暗唖。令人有病治難痊。

(訓読) 艮地孤墳ありて、一墓安んず。百歩をして中間に内れ教むる莫れ。久しき後、痴聾並びに暗唖あり。人をして病有らしめて、治するも痊し難し。

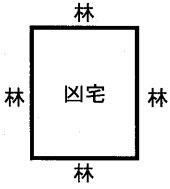
(通釈) この宅地は、艮(東北)にひとつの墳丘があり、一墓を安置している。そこから百歩の間にはなにもおいてはならない。(そうしないで居住すると、)久しくして(家人は)痴聾盲唖となる。家人を病にかからせて、治すことは難しい。



六〇、(原文)右邊白虎北聯山。左有青龍緑水浮。若居此地出公相。不入文班入武班。

(訓読) 右邊に白虎ありて、北に聯山あり。左に青龍ありて、緑水浮かぶ。若し此の地に居れば、公相を出だす。文班に入らずんば、武班に入らん。

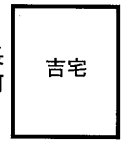
(通釈) この宅地は、右(西)辺に白虎の道があり、北に連なる山がある。左(東)に青龍があり、緑色の水が流れている。もしこの宅地に居住するならば、公相となる。文官になるか、武官になるか、どちらかである。



六一、(原文)林中不得去安居。田宅莫把作坵墳。田蠶歳歳多耗散。宅内驚憂鬼成精。

(訓読) 林中　去りて居を安んずるを得ず。田宅把みて、坵墳を作る莫れ。田蠶　歳歳耗散すること多し。宅内驚憂ありて、鬼　精と成る。

(通釈) この宅地は林の中にあって、そこから離れて住居を建てられない。田や宅地はそれを囲むように墳丘をつくってはならない。(そんなことをすると)農業や養蚕業は年々収量が減っていく。屋敷内には驚き憂えることがおこり、人鬼は魑魅となる。



六二、(原文)宅東南北有長河。坤乾坵墓近大坡。此地若居大富貴。更兼後代子孫多。

(訓読) 宅の東、南北に長河有り。坤乾に坵墓ありて、大坡に近し。此の地に若し居れば、大いに富貴なり。更に兼ねて後代　子孫多し。

(通釈) 宅地の東に南北に流れる長河がある。坤(西南)と乾(北西)に墳丘があり、大きな堤が近くにある。もしここに居住すれば、大いに富貴となる。さらにあわせて後世、子孫が増えていく。

六三、(原文)北有大道正衝懐。多招盗賊破銭財。男人有病常常害。貧窮不和鬧有乖。

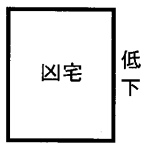
(訓読) 北に大道有りて、正に懐に衝たる。盗賊を招くこと多く、銭財を破る。男人　病有りて、常常害あり。貧窮して和せず、鬧ぎて乖くこと有らん。

(通釈) この宅地は、北に大道があり、正面から宅地の懐にぶつかっている。ここに居住すれば、盗賊に入られることが多く、財産を失ってしまう。家の男性は病にかかり、常に被害にあう。貧窮して家庭は不和であり、騒々しくて仲違いする。

六四、(原文)東西有道在門前。莫把行人斷遮欄。宅内更有車馬過。子孫富貴的安然。

(訓読) 東西に道有りて、門前に在り。行人に欄を斷遮せらるる莫れ。宅内に更に車馬の過ぎる有り。子孫富貴にして　的らかに安然たり。

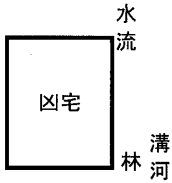
(通釈) この宅地は、東西に伸びる道が門前を通っている。そこを行きかう人に、家の欄干を遮断されてはならない。宅内にはさらに車馬がとどまることができる。ここに居住するならば、子孫は富貴であり、間違いなく安泰である。



六五、(原文)両邊低下後邊高。婦人守寡受勤勞。多招接脚並義子。年深猶自出貧消。

(訓読) 両邊低下して、後邊高し。婦人は寡を守りて、勤勞を受く。接脚を招くこと多く、並びに義子あり。年深くして、猶お自ら貧消に出づ。

(通釈) この宅地は、両(東と西)辺が(南に)低くくだっており、後(北)が高くなっている。ここに居住すれば、家の女性は寡婦となり、労働をしいられる。入婿や義子をもらうことになる。年をとってから、おのずと貧しくなり、先細りになる。



六六、(原文)乾地林木婦女淫。溝河重見死佳人。坤地水流妨老母。子孫後代受孤貧。

(訓読) 乾地に林木あれば、婦女淫なり。溝河重なり見ゆれば、佳人を死せしむ。坤地に水流あれば、老母を妨ぐ。子孫後代　孤貧を受く。

(通釈) この宅地は乾（北西）に林があるので、ここに居住すれば家の婦女は淫乱となる。北西に溝河が重なって見えると、家の佳き人を死に導く。坤（西南）に水の流れがあれば、家の老母の暮らしを妨げる。子孫は後世まで孤独と貧困になやまされる。

六七、(原文)庚辛壬癸有墳林。可取千株鬱鬱林。正對宅舎六十歩。兒孫換改舊家門。

(訓読) 庚辛壬癸に墳林有り。千株の鬱鬱なる林を取るべし。正しく宅舎に對すること　六十歩とす。兒孫　舊家の門を換改す。

(通釈) この宅地は、庚辛（西）に墳墓、壬癸（北）に林がある。千株ほどの鬱蒼とした林がとれる。ちょうど宅舎に対して六十歩隔たっている。ここに居住すれば、子孫は旧家を再興して盛りかえす。

寺坵廟が連なり隣接

六八、(原文)寺廟坵墳切要知。不分南北共東西。離宅未有一百歩。已後傷人殺子孫。

(訓読) 寺廟坵墳は切に知るを要す。南北を分かたず、東西を共にす。宅を離るること未だ一百歩有らず。已後　人を傷つけ、子孫を殺さん。

(通釈) 寺廟、墳丘については、しっかりと知っておかなければならない。南北に区分がなく連なっており、東と西にそれぞれ隣接している。このように、寺廟、墳丘が宅地から一百歩の間にある。ここに居住するならば、後に家人を傷つけ、子孫を殺すことになる。

おわりに

「陽宅外形吉凶圖説」は六八の事例を挙げ、それぞれの宅地の吉凶を述べているが、これらは大きく二つに分類できると考える。

第一は、宅地周辺の自然地理にもとづいた吉凶論である。

具体的には、地形の起伏（高低平）や河川、池などの有無と宅地との位置関係にもとづく吉凶論が展開されている。

たとえば、北に山（二五）、北に岩山がある（二七）のを吉宅とし、基本的に北の山は吉とされている。一方、南に大山（二六）、東に

大山がある（三四）場合は凶とされている。これらは、太陽が東から南に巡る際の日当りの重視、冬の北方からの季節風の防御と関係していることが考えられる。

また、宅地においては東に流水（河）、西に大道、北に丘、南に池水が理想形とされており（四二）、六八の事例の多くにその考え方にもとづいて吉凶が論じられていることがうかがえる。

第二には、宅地の自然地理以外の周辺環境にもとづく吉凶論である。道、林、寺廟などが宅地のどの方位に位置しているかによって、吉凶を論じている。

たとえば、周辺において、四隅に桑林（二八）、四方に林（六一）という環境は凶宅としている。居宅を囲む樹木とはそれが繁茂することによって日照や通風をさえぎるなど、居住環境を損なう可能性がある。そうしたことを考慮としたものであろう。また、居宅や門にあたる道路がある（五三）、四方に道がある場合（三七）は凶宅としているが、これらは現代でも車に衝突されやすい危険な宅地であるとされている。これらは、宅地の周辺の自然地理、居住環境の良し悪しが経験則的に蓄積されていった記述であることがうかがえ、現代にも通じる合理的思考も少なくないと考える。

ただし、六八の事例のなかには、その解釈が難しいものもある。たとえば、宅地の形による吉凶である。たとえば、東南がかけているのは吉（一）、東北がかけているのは吉（三）とするのはなぜか。また、南が狭く北が広い宅地（九）は吉であるのに、同じ形でも南が広く北が狭い（一〇）のは棺形に似ているので凶とするのはなぜか。西に道がある（四一）のは吉とし、東に道がある（三八）のは凶としているのはなぜか。いずれも合理的な説明をみいだすことが容易ではない。

これらに関してはたとえば、『易』の八卦の象徴と方位の関係にもとづくものである可能性もあるし、あるいは経験則にもとづくものである可能性もある。これらはもう少し、検討する余地があるであろう。

地理風水師らは周囲の環境の良し悪しが居住者に影響を与えることを述べ、できるだけ良い環境のところに住まいすることを求めた。では、どうして彼らは吉宅と凶宅の例を挙げ、それほど強く、吉宅に住むことを強く求めたのであろうか。

六八の事例の多くに、「吉宅を得てそこに居住すれば、子孫の繁栄をもたらす」と述べられている。つまり良き居住環境を得ることが、家運を安泰に導き、子孫の繁栄をもたらすというのである。

「宅経」の記述において、そうした思想が根底にあることは留意すべき点であろう。